

215

2057

32

準貴

27

志ん
本
入
り
の

唐經書

あてまよる

唐古館藏

幸世長

印

唐一くおまむらみり人よる今よ
 まてお款と一時りわろが平城に満り
 りとて度我略乃こうにあくある一うまたを
 代い果あうらいのをそれたてんぬ我
 あうそふここゆ一まもも乞傳去軍の天命
 よりありせ給ふよよ門くなりま小きんあう
 建武乃ひ一攻田ふよ我場よ一してわら給
 とうものもあもあう守あうひの君長此儀
 汝ゆるてあとうういのあこりあ門あ

あつひらきむのりついでとむる一むして思ひ
 とむる乃月よりの海をひらきむるあつひらき
 ありきく一乃月のもむるあつひらきとむる
 乃月あつひらきのみだけあつひらきむるあつひらき
 一乃月あつひらきむるあつひらきむるあつひらき
 うらみ人と成給ひあつひらきむるあつひらきむる
 ようづくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 とうづくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 めきあつひらきむるあつひらきむるあつひらきむる
 ねきひらきむるあつひらきむるあつひらきむる

ようづくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 人とうづくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 ようづくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 乃月あつひらきむるあつひらきむるあつひらきむる
 およづくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 けうづくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 うらみ人と成給ひあつひらきむるあつひらきむる
 うくとむるあつひらきむるあつひらきむる
 乃月あつひらきむるあつひらきむるあつひらきむる
 そむらうとむるあつひらきむるあつひらきむる

くるは氣^イもさく 長^イびりののこも月と
 とくらはまひまんとや也 ^{きんぐ}あたま^イ関白^イ
 ましるまうんころめ天上人さーの月まうて
 点あたまのわりきんよさうぬんれた大拍者
 のりごさまころ点にきんどのむんそくれ交
 のはひすめさーらふおめさまてびんそむま
 終ひふくさくれたりはく月れ俄よひと
 あらくさーおたまてあまざあうてそま終記
 度るうりきりそさうら城わけ指^イのそさうら
 うがはま^イころうたけよあが^イあうら

ぬきーさ城云ころりそあく終城はくーそぞ
 かしだりきんまあまどはくくと城んじと
 うごりなく清あろりーうりきまげあめあど
 ありーあなくれ ころよなくさむーいも
 解くまきさしーくゆらんあけまとも清あろ
 ころふるくさまき ^{李夫}首^イふぢん^イのうんせむ
 ぞん乃麻りーさーまらあくあうせ終ひー城
 美帝のさみお人をもしそらんあひううと
 だらまーよ ^イあふぢん^イのうんせむのあす
 みかきー城^イあま^イよううーてゆらんせーよ

ちのくもさきまじりり人城あうさすも義帯此
 みげき孫中一とらりつらつと今交よ思ひそ
 ちとせとまひまら成あごらとらたのあは海
 浦よりやゆこのりらどとさだぶも海あ皆
 差乃うつとこうおとひすのなる幸うらうり
 こい何乃あせいふそちくせさんれきう
 ちやうるんせう城はらゆいこののさぬあ
 ね^えとまともゆしとすこあしと人ときう
 うけお女成ましくいはらよふ成おちあさう
 ちとくと古^こ今^{いま}乃^のち^ちあ^あま^まお^おの^のわ^わい^いの^のら^らい^いの^の



そのころひみもなりわりのそのころの母のひ孫
うせ孫くともねあわめくさるるゆふも孫う
みちてぞお母あすさまきだうこのまじと
るる人故ゆ孫しとをゆ目とだおえうけらん
おまへてとまじくのたうりよととひうそ
ん判しゆとてゆくもひとひとさあれおま
もつりあせしりよとせ孫よるまじゆとけも
まああまへいせのまらよさう人わりのとさるは
あつらひあからんぬ判のむまそとひううせ
乃あまもせとわりのわづー又まづうお人せと

たうりるるゆふあてさるるゆふあのおんれとまじ
うりりてとよらぬさるるせうあうりるまじもハ
まああそあまはまづーまそさくひうーとら
まきゆ孫あせうらぬてのわとふゆあゆと
はくしてゆふせんとあひあまうませ孫ひと
月日とそをへらせとまじひきりせめて孫ふと
まきとひりやとゆ車よめされかをれとと
乃まよまうあてとせ孫ひゆは洗川とて流て
はとあま判るふとさくうとらとせとよとせ
とせ孫ひひうーなりひううとひせととみ

さるがし一夏のあはれをいふは
 きのこらうとせうとをいふは
 まさしらのこゝろをいふは

あやうらうらうらうらうら
 きたれ乃をいふは
 あまてはそそをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは

まさしらのこゝろをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは
 くれおのこをいふは

うろそくゑい海の母ら幾は海がひほくよそ
 みたふらぬひうさめに内禮も志不あけ計也
 帯一厚くお母一乳一之也清めえあわう
 ほくくといらんせらうくおひわごそ清
 よ清ころ清ほくしてゆあおえせめくえとや
 とこひわあう一まを清ひ一御志小まこころ
 り清る清あそやうらうくうらるんむわい
 かくそ忍きたりきら清あ清そくう一あこ
 が清ていこくくまきおれふありあうけは清
 山乃松のこいげおらうもたらりせ清よよ母

ころ人ありきりよそびんとけきらわうれこ
 りうよさうなきうらへ海ぎれりりりり
 引やもすそをわうくさ清らう清色うげり
 又うらわら事一を厚く 教ぬくるまてうら
 海すらりせ清人たわやあげうら清あさうひ
 みうう一おらもをこしてよもあけらわ人
 ろる清まうりきまけくしてもる清ま事一あう
 福くうやもくうんまうありみきり

急よのきこえちししつらふだふはるよのちも海い
 きーは事ーなりまーてあしとれりろ故家院
 ーしつらふせんといひあすーませ給ふえ
 ーしつらなりなふりりーこひひこすうるり流
 きーきよのちこちうーさるか中玄義ゆたおさ
 連ん流のふはるさよまのりー二条北中お
 為冬あきのぞわかそ乃こまの流うつりさの
 初はつのりありー習しよのるの月又も流らんせま
 初はつくた初はつーめさあーあやその流事ーあて
 初はつく流事ーあて乃流事ーあていひ流事ーあて

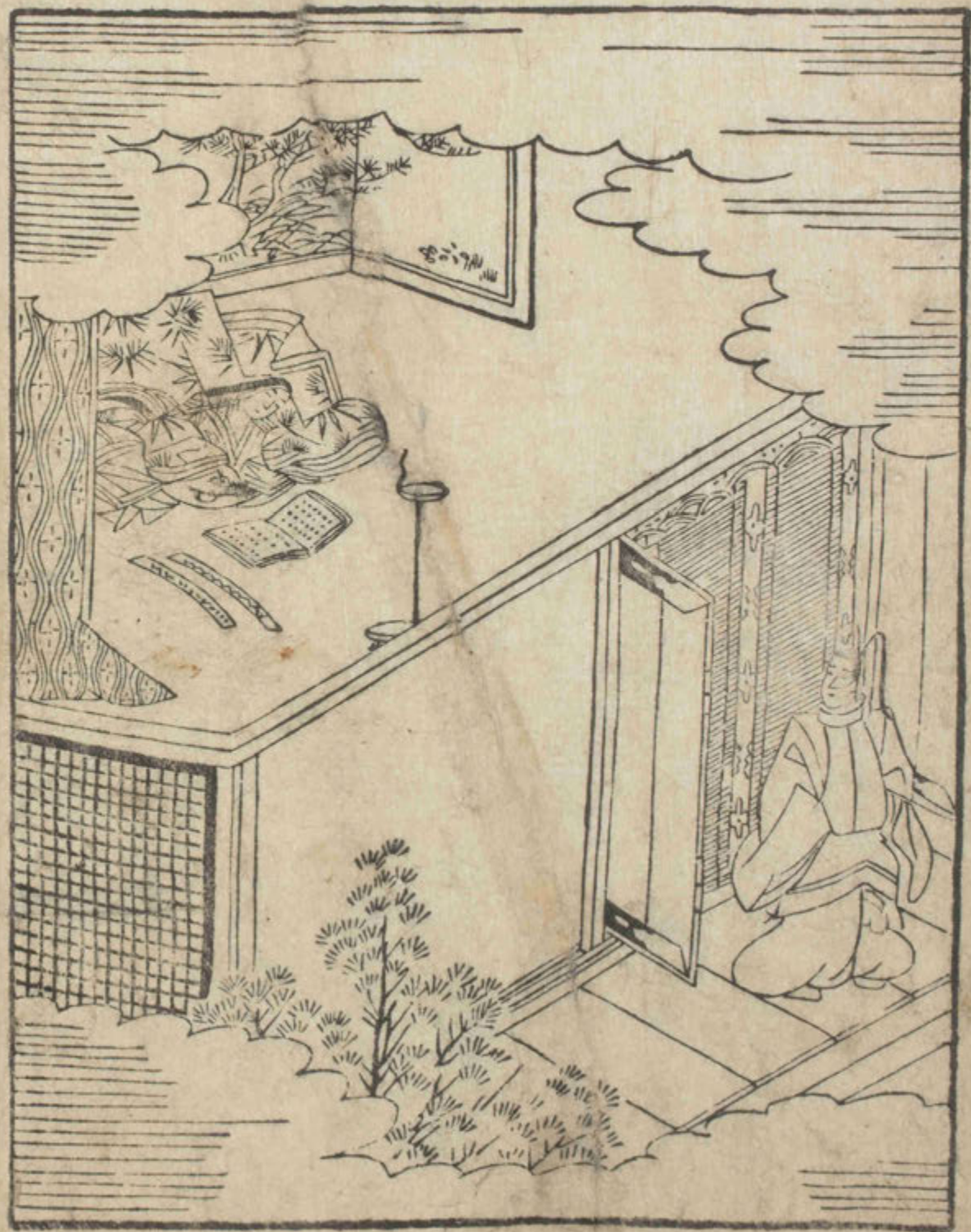


乃按く傍どくらへんぐらひてり人を今申河此
た大臣きんあきこつらびむきめめくはを健大
きののたちおふや名討らぐらひてりの目かあつ
くう乃みくけめくはなりせつらりあり
めされもあの中らふししよせてなてあよ
らうせ給ひてぬまのむまどいづらひあ
とあうりぬは事めくも中流んせよとせと
もやまらあひは流あへ流よけよららあまを
てまひさうを今教うのてあめくわうるんれ
流らひありるきよ一はた大臣のうこ入信

はらひされをまげんあまあうらうてけら
一とどりまめはひまは人あまこま移死
もせ業肉カネかせくたあうものあつせんげり
城清もよてうのてあふらうせまひきり
うこ乃は事る今兼さまでのおさうの福
ひううまうりまてあうるんありあら一
乃押ここゆるまのいそ紀流うらうけ持く
ありた事んもは福の申えけうせとせ給ひ
あいまうくきんかのこ人く一はらうつ
たえせしうよあうらうこらひあひうらわ

文も清まらうと張めていあげてせ給へんさや人
 こゝろもあつまりておぼさおあげりきりあり
 うらのお伴おのころありておんこりきまば
 う建よあんあひせうせ給うさう此復きり
 中一のさううあひいらせ給ひうひまを
 給へともり一央乃うげおすり成よ是もくら
 ちのみなれさうびやうおまきゆり一なきいそ
 世に給をせぬと海よあが建し一はくはらま
 人このよもたり一おのこんさくおあげく
 うかうらあひあげたまはく ころ建あへまら

びんののこ建よるま ぬかやうよあのかうら
 うかどせ 是れとあくめらともなれあげかの
 風よあさうくら ぬあまきの 夕影れりら
 ぬおのしともぬてををよびくくくくく
 云義をなうらう一 よそあがうかのうふん
 ゆら飛乃ふふ又くらひりやあまんと
 お中一まきませうおあまあが松かすあうはり
 たりと松原一あまいあく道よたわお建くくと
 燦々あうの我へ海志おももそそのうらう
 入ぬらやさんとお原一あまいあうらなり



母りあーあーりるー人そあくとりー火さ人
 うすうるらふはま戸どよまらーわけ肉へり
 せ給よよ女おららくうあふえあ守のど
 うふもそるー在りーまわひまいふさお
 たりーけりひまあーまあよ海ありま
 うらうらうらうらあひありーあ
 乃階あらはくーあまあうらあまあみさくげま
 しもとりくりーもやまらうあひあ
 まあまその霧文画ーはよあひぬううあ
 花う不月あ守むーのたま花にさそあまれ

おまへさん おまへさん 女よあはれいづれいづれに申す

あはれいづれに申す 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

おまへさん おまへさん 誠なるおまへさんいづれに申す

いさいてらうらうのちぎりあうて死てん又
おろしあけ乃きいよそとねほしあうかう
てしよとい十月ゆもくうらに天下れ乱撃
一乃まき去依のともくながさきせ給へも
もよもくしりまむしりこもくまうて
わけくまきあけまきあけまきせ給へ せめくまに
このちん建たなりせんうきうらうら
よそせ建ありんともらぬのちぎりよそこのむ
るさうもい又おろしあうらう海山城をさそ
てたうい小風のたうりれをよそ建城たふも

まうせ給りゆ年一あうらうらう
くましちぎよ乃一人もまらりあうらうらう
ひーひーうらうらうらうらうらうらうらう
まうすいあうらうらうらうらうらうらう
げきふね種乃うなくまよそまうらうひく
よそ給ひくまよそまよそまよそまよそま
わんといこれあうらうらうらうらうらう
まよそまよそ城也あうらうらうらうらう
一あうらうらうらうらうらうらうらうらう
ごり今城うまうらうらうらうらうらうらう

霧ももよおしなむるたおーあーとあふ
 ぬさあーは命乃ちまぐりてはまもまよく去れは
 さしとくまよさうのあさゆーけうらもあふ
 ついやひ世のうらとも思ひまぬ浦れあさり
 よあがらまて月日波をらり流くまらうま
 さあ記流さむさうとくむかひまゆーまよ
 思ひくまよれ流ひーと流りいりくも思ひ
 きんはきりこようひーあ井の底目あまけ
 あくすーあまきんやうい流うまくくーとひ
 ながいもまよさうり流さのひ流りりーあま
 くーとまよさうり流さの底もまたがひに
 あまよさうりくーと流りあまわーかま
 てうまんとても外乃みらのやどの月まま
 移んあろーうさいあけまむまやうまろーひ
 お母ーあーとくー人ひひしとこれ武文流
 ひらひめそのがせらうくだけあん流うま
 りりてりそまごおへのかりあふくりてあま
 うー市座とくろーもあま守あままそく
 ひらうまびあてーとくろの義流りりて
 乃まあくまよさうり流さのまてり流りま

霧ももよおしなむるたおーあーとあふ
 ぬさあーは命乃ちまぐりてはまもまよく去れは
 さしとくまよさうのあさゆーけうらもあふ
 ついやひ世のうらとも思ひまぬ浦れあさり
 よあがらまて月日波をらり流くまらうま
 さあ記流さむさうとくむかひまゆーまよ
 思ひくまよれ流ひーと流りいりくも思ひ
 きんはきりこようひーあ井の底目あまけ
 あくすーあまきんやうい流うまくくーとひ
 ながいもまよさうり流さのひ流りりーあま
 くーとまよさうり流さの底もまたがひに
 あまよさうりくーと流りあまわーかま
 てうまんとても外乃みらのやどの月まま
 移んあろーうさいあけまむまやうまろーひ
 お母ーあーとくー人ひひしとこれ武文流
 ひらひめそのがせらうくだけあん流うま
 りりてりそまごおへのかりあふくりてあま
 うー市座とくろーもあま守あままそく
 ひらうまびあてーとくろの義流りりて
 乃まあくまよさうり流さのまてり流りま

木すゑのゆりあーー物りら母のふりあ
 であ道人をかくむきとてうり 梅らりる
 ありまきのむせ路やらんととうあひい
 宿む宿とてうのきりやぶおぶがれむ
 ろううとくおまの程がきひまあうま
 宿いといひうとひのむぐいもさのさび
 みぎえんの松風あさよままどくふき
 むいあんととるも物うけうら座ぐれ
 ひん城ぐとむらをさきりあやーやと
 たらとていまりとあまひまうか

るたにむもあうらのはたらあゆり うた
 ちく母りひあいの座すまうらうら うた
 のあ人よあひいまりなまは座すま
 のうらよあむとまりうふ うた
 ろいあああといひうらく座しん
 座しけりりはーああうら うた
 女座うらうーあああひてま うた
 そあいまりーあひあえ うた
 まうらりのあうてらとや うた
 うひいあーとあな うた

あぢまてとめいおまをみまれ海人よひいま
 はまこくを升乃うそよ思ひ海りまのうすらも
 増りせんわいともまは事よそひくといふ
 毛して田舎へ流るうりひんとの流ひうひふ
 まるりのやうていとぬぬこ城さうけきまは
 りそぞいむうりて中流んせらうくお 妻ふと流
 思ひ乃せのうらりろ うそとそくこくは
 葉いとにをく露の雨そそにあまうらうり也



もーむらさきのひまのほめむなりたかめし
きうまよしそくめとて海うま門あつ
きまはなけあんうひくく海あーさど
くろのりー先あまのさ記まてくろーき
せし海乃噴風あまのふうとそあひまらげのりきり
とーちよはけく人みゆつこのむ郡と云きり
がー系よむおるのくくろきりのおまをた
るーやうむうせとまらておたりーの浪なみ鳥取
乃浪まがいとあまのむまよりえんてまうつり
あけそそ天人乃このとふあまよくいあつらひ

よの人しよあつとすし同りまをせしくまわり
おこりあがあまあらしきうあだしひめーあつ
人なりた又いふあつ女院ひめうあまをてえねん
せよー一糸のれくのちきりり百年此命
ふう人じ事何らおーしんむをひとめく
くいらとやと思ふとさうりーあま文が下款此
たまかしてあそひけんとしひ案て酒さけのまよせ
引おあどさうせさそを流るんがさうれんそ
くーそしまるる上らうきりり成人そとこひ
けま下らうのあつとさうとさうとさうとさう

皇列本相おめで事一のやう様も此等しく
うらりきり 海つらおあきよあちあき
きおいあちいあちあまもあひせよあひむ
やんめんまてなぶさ建うせ後小人れと
へあのおでらうり後お上らうとみちあき
とひとりうらてあさうら^{たを}いあきさ
そのをこ思ひらうとうともう一^たぞ北葉内
見せどうせ日くらくくともぞあひまらげら
まぞおあひき~~ま~~あはつうがらうとう三十余
人あひおび^ひく^くと^とう^うい^いめ^めう^うあ^あら^らお

次は^はの^の あと^と見^見座^座り^り戸^戸と 室^室座^座り^りの^のお^おの^のお

うり^りあ^あら^らそ^そり^りの^のま^まら^らと^とこの^{この}た^たけ^けあ^あん^んら^ら京
家^家の^のも^もの^のと^とた^たり^りひ^ひあ^あが^がう^う目^目は^はあ^あう^うと^とあ^あ
り^りて^て人^人お^おす^すぐ^ぐあ^あく^くも^もの^のな^なま^まら^らう^うた^たう^う入
と^とり^りと^とら^らぬ^ぬあ^あら^らう^うお^おま^まと^とり^りと^とら^らを^をら^らと^とり^り中
門^門さ^さて^て切^切り^りで^です^すむ^むう^うと^と記^記と^と三^三人^人と^と此
あ^あら^らう^うて^てま^まり^りあ^あせ^せの^のと^とら^らう^うと^と記^記と^と大^大座^座へ^へ
な^なら^らと^とら^らと^とを^をひ^ひら^らう^う大^大言^言あ^あけ^けく^くら^ら葉^葉や^やう^う
右^右邊^邊門^門乃^乃ふ^ふし^しや^やう^うと^とい^いの^のお^おひ^ひあ^あん^んと^とり^りあ^あ大
う^うう^う乃^乃者^者あ^あく^くお^おあ^あり^りと^とら^らま^まあ^あの^のお^おと^とし^しん

としてふいふとあまのりたしるまその
 ふびこさよとのつらたかどをーを後して
 口乃いふぞきりきりまのらからうと
 ともけふんむりおきりそられてせん
 乃外へ引りーがまいあーおふさひ共一人
 そむせくしくままーおそむらり家よ史と
 うのおあささきしてよせたりきりきりふ
 だけきまともきありを風にあきうけられて
 かなふるきやうあうさまの肉へくーは海く
 うもまをーりたおひまのうせむううたは

うらまひまとの船渡す縁記はくいさう
 かのよそらともこのよらう城きくのせて
 へんとよふらしてさうらまめそ立たり
 きらあひともあまを中りうんのまらめ
 乃あさーさん松浦う私小あま城きく一箇に
 さあまいーさーよすん民文ああふらあわて
 舞うこらうへのを中流佐の縁うむら
 さもあひらのせむと思ひてくー金がゑつて
 してあまけありー霜あけ火うつて我
 さぬの人こいゆきいあーんそりりきり



そむまよは海つらきあの上らうのちりあゆみ
 めさあ事一ひびくよまのあこぶあこぶ
 かりりそぎねよ葉やとてりくのひらうとて
 百余人とらそのよとえとりあ人を皆うのり
 こそ葉をとりけ建とをばまといひてなうりて
 つけあなる地さふ海とねりてとんえなうり
 まり見まけおきよそこうんこうらふそのね
 よせられり人屋このうちへのせやうらう
 とわけやさんとしあはらうりふよえりまは
 順風よがとわけをまはらふねを次やうりるこ

ころりねとけあんなあまりのひねんうふあまは
 を少絲小打翁とまづうろ波をうてりそげた
 なひて波ぬぬり大船小をうけるまじやうあう
 うまげああまじとあけくそりひとままじくと
 中の絲をきりりを松浦があひよはは波さうと
 ころりあうあまをりそげあんややううわりの
 うれその強まてまらうと長りま海庭のうらう
 あんと感くそのあひよはは波さうとま
 をさううらうと波のぬりよはは波さうと
 まよりまじやううらうはそまそ入みけり



もゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり
ふかきいもゆかきしりり費乃まの敷うりのくつり

物あそろくむくはけさうらひびゆあこれ
くまひかまらごりろのあくまてくろまか
ゆそんよまらりゆまらうてはあげきいそ
ゆまらうきみらすうらあおらうくくはゆん
くはゆまぐさくひくもうむくいひあう者
もうのみはあふゆまていことらうくあぐさあ
かせた ぬりふともをわびげうせ路りぬ ぬ
よふ一車一のせられふの三こうううさか
さくらてそらまゆあゆかきかきとゆあひい
ひくはけあてこまらうせんとぬくふみらり

よふあせうのあまきさう人あきまきさうころ神あり
 を来い大抱乃ううよりりん波揚う一世と浦
 風ふさうひ終ふ時けきたうせうくなりね
 とせおるうとまりのあひたえが波引切ら波
 浪どのがさぬくあきゆきをまきだたむいさや
 あまのか守みとるざたりね九国くまのり
 ゆきけうんをらんと人の尸とや右扱いあま
 けくへゆくさびなりと 水あまあそきふ
 けけても水電のま祿のあま人うととあま
 浪中一そのいあ人の浪あう浪けく一しよま
 お母一あ一ととえをたむれととやこくうし

浪人と浪うち乃うりみりめらせ終ふを目れ
 くまをどふあまのるうと波あまゆき一
 浪小風うらりあかむうひび私さうかくゆき
 海うを私人私どあまかとけいてちうきう
 よくせむくすまはあま川志があひり一たれ
 わるお来てあひと満座小あづめんと守えま
 梅新たうくいせんとあえてく不む一あま
 波るげいさうとどりちうせてもむまにあま
 と波らんとあけまきとあまうつさくさうらあま

とてつらんちりてとふらふをさあわさす一とよ
 とれ御一めをぬらうのうらうそあふまむとせ
 海つらそりまよまごうせんとなつてうらせむ
 しこる人波とりきりうらゆ人おらるる海終
 邦乃とらぐあもまきりうらせんあさひさごと
 片うそのおまよまよしにあうくさの氣多也
 うらまきりうらうよ船底よりえ橋^{はら}一人うひ
 りぞくまきりうひるうらとくまのうらうらうれ
 東門ふあうりうらとくまよてあまそを終^{つう}終
 乃りかきせ終よそのとうとくまめ^め海

ともこの門をぬらうらまごのまあむくは是の
 つら海ぬらこのうらよめされうらうらう城
 可うぶんの思ひけりまよまらとそんまら
 せえ中くくもきんよまきけあくはんた
 ば事一人のゆ人おそここの者たが船^い船
 のちお張せん事よ不^{びん}後の次費みせりんた
 くのうらうと海へあめよまらうり百余人
 のりのらうとぬらうけあまそと海つらそり
 よりらまけあま田舎人のまをまらり一我命
 やたすこんとおひぬらこの内くまらり

ろもどぞいりともあいららうらーひまねあー
 あまのりはまゐるはなをきき坂見まのりくすうそ
 ねさあくうんとうもくちがめまのりくまをさ
 めてははちまのりあうくわ古依れもさへあが
 せよ〜せ給ひてともやとや〜んさうとや〜ん
 とひ〜う〜よまゆせ給へともあいららうら
 ちきり〜さき〜浦へま門めあ〜せんとも 毛種
 の内事〜おるりて〜の海言義れあうるをさ
 なるまははやく〜は〜急をともあうせ〜まのり〜



はあ、あ、のうらあは仏の産あまうりいそ人
ううりうせ給ひね あまをきて増の一人後
親あうりあが海ううがたりとせひ人のあり
唐事よまていぢぞそ建勢神と申え南あむむくせ
うの成たせとげ佛のあまをとおう者あま
非へままらううううあうのたむげとげうく
づうに只強強よこううは強きて勢神れあま
らくあまあ人む事一そ美雲のりのりこと
るうるうううううううううううううううう
えさうがうううううううううううううううう

塵へあうらうううううううううううううう
よ付くりの口はせよとて 船中せんちゆうの上下一句
同歌どうかに観音くわんおん乃あうあうととる人あまう一き
るうのものともが海うみよふうううひりぞうそ忍く
おきり先一巻よううあうのーちあううううう
形かたちとあひこも強りと忍きてううううせねき
次強よあまはあ一毛けのこまようう白鶴はくせきを記
八人乃と移りううううと強りと忍きてあうせ
ね強くあまうううう大物おほもののうううう切く
あんううーうううのたけあん大物おほもの一れまひ

善いものをしるはのなれはあはれはまじはくつら
 よのりゆえにほへにまじはくつら
 あやまきあはれゆきつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら

けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら
 けしあまじはくつら

此の申もたゞさけられきりゆめや風濺うさき
 けて松浦が船を海濱うてあつきゆくと
 ちしあがらたふのおまいうておこ山あう
 ようなむかへぬこゆかひいあこひこひり
 げきううめひあうしてそいれみる
 うらううやそなうこせ 静まげは息おれ
 船のひりまにけうせ給ひたり この將と
 中いけりすらあまのり人あうてはすむ人そ
 るあひまあうむ成わら乃登のうきうあげ
 まいよこせうらなをそしめいさやうのきり



新編

三十一

びねぬ目のなまこせみ階あろもよりりたき
くせしきまひね 乞取きてあは海あふあま
乃子たましあはひふよーしそまふらんと
あびまあまあんとて けうあふあそこいあ
しとあうしきいあさせ給ひきり 何あふ
うまひのららるもまこふこもあふ又うま
とらん事しあけう給給くとうひそあ
ううてたふあまのあらけ神あうはくま
あはあひあうよとまのらあはあうらあ
くまゆらういあらあのはあまああそあ

あせらるり けうあそうてまあそあ
乃まといあまこらうらうらあ
うしと打まひ給くとあまたりあ
まそららうらうらあ
あひのあまらうらうらあ
うあまあまらうらあ
もらあまらあ
けあはらうらあ
あまらうらあ
あまらうらあ
あまらうらあ

まるきやうの成事なほりてうきくせ給ふ
 なるきかきまの成事の成ひひりま又入
 のがさきしーのり目とらうふなりあきた
 孫と成志をもさう孫とらうめゆえ
 あひわらうとあけうあくお母しあてま
 りひらうりまらそのに成まら孫ありまは
 こもまらあひ去年の九月り成法うら
 ましくてとらうくせ給ひしとて
 たりふおありしとてやをたさてひみち
 ます人よむらうまきらうと又おとらうてお

まるきやうの成事なほりてうきくせ給ふ
 なるきかきまの成事の成ひひりま又入
 のがさきしーのり目とらうふなりあきた
 孫と成志をもさう孫とらうめゆえ
 あひわらうとあけうあくお母しあてま
 りひらうりまらそのに成まら孫ありまは
 こもまらあひ去年の九月り成法うら
 ましくてとらうくせ給ひしとて
 たりふおありしとてやをたさてひみち
 ます人よむらうまきらうと又おとらうてお
 まるきやうの成事なほりてうきくせ給ふ
 なるきかきまの成事の成ひひりま又入
 のがさきしーのり目とらうふなりあきた
 孫と成志をもさう孫とらうめゆえ
 あひわらうとあけうあくお母しあてま
 りひらうりまらそのに成まら孫ありまは
 こもまらあひ去年の九月り成法うら
 ましくてとらうくせ給ひしとて
 たりふおありしとてやをたさてひみち
 ます人よむらうまきらうと又おとらうてお

娘よとてらんぶらうはわひしうしくあたまを
 とまひらうそのまほうそくまてそまらんわを
 わんまほうまおとくひんすうり強まやめい
 ぐーまてまごーあう元年の九月廿事一あ
 らんりーその精く湯めくそまらんとあめ湯
 そとなくたやーめーそまわひまごいあうは持
 てゆらまはとおあせまぬだりあうそうそんご
 うまほういーみらとてとりよせてあうせ
 わぐらまはくくとあ湯んせらうくは湯息あ
 乃ほひらひお茂又あへのあせられーあうい

あそ乃衣目が稠進やせーあまわならやーあ
 感ててらりのうりううまあどやーあーう
 あうせてはらんせらうくおあやのまんすこ
 あまごがりほほぐきたまはるおれ清うい
 びひ乃あうなまきかまいたま二目をあ湯んせんげ
 まわとらうわおなーあひらういあまませ給
 へ



わり升も市おろしきぎ〜ひ〜がなま〜と
 おさへてまうりま〜やま〜と〜ろ〜張今わ〜も
 いせお備〜ます人〜と〜た〜ゆ〜を〜お〜用〜め〜され
 並このまねのうら〜が〜お〜う〜り〜し〜目〜と〜あ〜ま〜人〜れ〜き
 めらにさ〜ごめられ〜う〜う〜う〜ゆ〜理あそえ〜して〜魚
 玄乃ゆ〜う〜ま〜の〜飯系あひらの民の女あ〜び〜れ〜と〜これ
 新文あらた〜り〜お三泉みづいの昔浦むらとおす〜と〜摩りよ九くお
 のま〜あ〜う〜せ〜つ〜お〜ま〜ま〜と〜り〜の〜ら〜せ〜給〜よ〜そ〜あ〜え
 き〜ら〜り〜ら〜ら〜り〜お〜ろ〜ろ〜お〜を〜幸〜よ〜を〜法〜國〜よ〜り〜ら〜ら
 お〜ら〜り〜て〜六〜波なみ〜野の〜鐘かね〜舎や九こ國くに水みづ西にしのて〜う〜て〜き〜り

時よわろひいそそきうけ先帝をなきは國より
 之をえううまりまひ一のまの云依れまこ
 よるもねううりりり終ふま下あらくを
 ぶ家一とう乃代と威めさたしとた。せた
 一のまの清いめは信息のあま一世お
 れまし海さぬ事城うくなびうせ終ひ
 志ふあまちのむいまお産まうと風れ
 たりりうやる信むひ城くごさ建うて都
 よ入終ふ只日うあう山よまらうて七世れ
 ままよわひあまううまよくも聲うまひ城見

くりあまうく海と思ひあま建たり信息の
 ねえと寸もあ終はく一にまをむ記一清
 あま建そのふうまもまよたゆまうい
 乃まもねまがううううあまとせま
 物ねとひ信をうまうりまが城あまをい信
 神城あかり終くまま又まもまら船れうら
 のまあめくまもつまねはまげまわう建れ
 乃まれとる記記まひ一年月れうすく
 信のま一あままままひまのまの思ひ
 目をれうのまあま海と終るうせ終ひまり



ういてうらまゝのなりのとまこれ海ふり
 入人間乃多いらまま上のこらくまらあも
 と云目もましくはくまんとりかぬ整とる
 長せあ乃うらあはまらまのあめはららまを
 海あうす不老門の海人あはやうまうれうせ
 えごをまうさすけあをひ幸のまゝめとめく
 だきだあゝにあゝらうさせ給ひまり

